



携え上げ、大艱難、聖なる都、神の御座のビジョンとサタン

Visions of the Rapture, Tribulation, the Holy City,
& the Thrones of GOD and satan

イエスに出会った8歳の少女の証し

(ハネット・バルデラス・カネラ Jannet Balderas Canela)

スペイン語オーディオの英訳からの邦訳。イラストは証しの理解を助けるために添付されています。この証しは、独立した信頼の置ける預言者によって確認されています。

(www.DivineRevelations.info)

愛する兄弟たち、主がこの時間を祝福してくださいますように。父、御子、聖霊なる神様の聖なる御言葉を読みましょう。2コリント 12:1-4、「わたしは誇らざるを得ないので、無益ではあろうが、主のまぼろしと啓示とについて語ろう。わたしはキリストにあるひとりの人を知っている。この人は十四年前に第三の天にまで引き上げられた——それが、からだのままであったか、わたしは知らない。からだを離れてであったか、それも知らない。神がご存じである。この人が——それが、からだのままであったか、からだを離れてであったか、わたしは知らない。神がご存じである——パラダイスに引き上げられ、そして口に言い表わせない、人間が語ってはならない言葉を聞いたのを、わたしは知っている。」

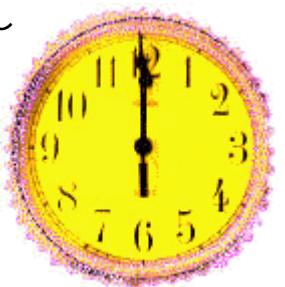
私が1999年9月5日に主と共に経験したことをみなさんにお話したいと思います。その日、私たちが教会にいと、神の力が私たちの命をいっぱい満たして下さいました。私は床の上の倒れましたが、主の臨在が私の中にあるのを感じました。主が私を取り扱っておられるのを感じました。そして、主が私にビジョンを示し始められました。



一つのビジョンでは、二つの道路を見ました。一つはとても広く大勢の人たちが歩いていましたが、みんなは滅びに向かっていました。他の道路は非常に狭かったです。私はたくさんの方がこの道路を歩いていましたが、みんなは主を賛美したり、主を褒め称えたりしていました。

それから、主は別のビジョンを見せてくれました。そこでは一人の天使が竜と戦っていました。竜は火と悪鬼たちをこの地球に投げ込んでいました。

その後で、私は非常に明るく輝いている時計のビジョンを見ました。その時計は金でできていました。時計の針は12時を指していました。でも、手が現れて針を11時に戻しました。主が私に言われました。「ご覧、私のしもべよ、私が時間を戻しました。私の民は私が願っているほどに用意がまだできていないから私が時計を戻しました。それは私の民が私の願い通りに私を賛美しないからです。そこで私の偉大な憐れみによって彼らに最後のチャンスを与えます。だれでも、私の足下に来る者は永遠の命を得るためです。」



それから、私がまだ床に倒れている間に、主はまた別のビジョンを私に見せて下さいました。一人の人が馬に乗って私の方に近付いて来ました。その人は私の方に手をのばしました。そして、床にたおれている私は主の腕に抱え込まれるのを感じました。主が私の霊を私の体から取り出して主の腕に抱え込むのを感じました。それから、私たちは動き始めました。上の方に向かって昇って行きました。でも、そんなに高くも低くもない所でストップしました。主が言われました。「ご覧、私のしもべよ、私はあなたを連れて行くと言いました。今からそうするところです。私が自分の口で言ったことは必ずやります。だから、今、私のしもべよ、あなたをここまで連れて来たのですよ。しかし、まず、私の傷をあなたに見せましょう。それは、あなたがそのことをしっかりと分かって、あなた方みんながそのことを決して忘れないためです。」

私たちは神様の御座に着きました。そして、主はくぎに刺された所と槍に突き刺された脇腹を私に見せられました。また、彼はむちで打たれたときのことを私に示されました。私たちみんなのために受けてくださった傷あとを見せてくださいました。主は言われました。「**ご覧、私のしもべよ、あなた方の多くは私があなた方のためにしたすべてのことを考えもしません。あなた方の多くは、私があなた方のためにカルバリの十字架で死んだことを忘れていています。だから、私のしもべよ、私の心は痛んでいるのです。私の民が私をこばむと、傷口がふたたび開くように私は痛みを感じるのです。ちょうど、彼らが私をもう一度十字架にはりつけにしているように痛みを感じるのです。**」私たちが主をがっかりさせると、主は痛みを感じて、泣いておられるのを見ました。

- 天国 -

主が言われました。「**しもべよ、私はあなたに多くのものものを見せてあげます。黄金の通りや水晶のように透明な海をあなたに見せますから、私の民のために私が用意しているものがいかに壮大なものであるかを彼らに知らせなさい。**」

私たちはすぐに美しい通りのところにやって来ました。とっても美しい所です。地球ではこんなものはぜったいに見たことも触ったこともありません。その通りは光り輝いていました！主は言われました。「**私のしもべよ、この金の通りをさわってご覧なさい。あなたと私の民はここに住むのですよ。私の民は間もなくここにやって来ます。**」主と私が一緒に馬に乗っているのが反射して見えました。



その後、私たちは水晶のように透明な海に着きました。それはとても美しかったです。主と一緒に海の上を馬に乗って進んで行くと、主が言われました。「**私のしもべよ、これはみんな私のものではありません。私の民のものであります。あなたが触ることができるものはみな私が愛をこめて私の民のために用意したのです。**」そして言われました。「**しもべよ、ここにおいでなさい。他のものを見せてあげます。**」

それから、私たちは美しい所に着きました。そこには神様の栄光を見ることができました。また、神様の力を感じることができました。そこは大きくて美しい所でした。テーブルがたくさんありました。私は主にたずねました。「**主よ、このテーブルはみんな何のためにあるのですか。**」すると主が言われました。「**しもべよ、小羊の婚宴を覚えておきなさい。そして、これらのテーブルで、私たちは小羊の婚宴を祝うことを覚えておきなさい。**」テーブルがあまりに多くて数えることができませんでした。そして、その端っこも見ることはできませんでした。そのひとつひとつのテーブルには天使がいました。私は主にたずねました。「**主よ、ひとつひとつのテーブルにどうして天使がひとりづついるのですか？**」主は言われました。「**私のしもべよ、この天使たちはテーブルの飾り付けをしているのです。私が既にすべてを準備しているので、これらの天使は各テーブルを用意しています。**」

愛する兄弟たち、テーブルはとても光っていました。それがみんな金でできていました。テーブルはとてもうまく飾り付けされていました。私は天使が、みんな金でできたフォークやナイフやスプーンやコップやお皿などをセットするのを見ていました。主が私に言われました。「**しもべよ、私はすぐに来るから準備をしておくようにと私の民に言いなさい。私が彼らをここに連れに来ます。そして、この小羊の婚宴で私と一緒に喜び楽しむのです。**」

それはとても美しかったです。そこに主の臨在を感じ、また素晴らしい栄光と威厳を感じることができました！主が言われました。「**しもべよ、こちらにいらっしやい。他のものを見せます。**」私たちはたくさんの美しいドアのある所に来ました。とてもたくさんの美しいドアです。主は言われました。「**それらのドアの後ろには私の弟子たちがいます。これらのドアの後ろには私の使徒たちがいます。これらのドアの後ろには地上にいる間、私の名を賛美し栄光をあらわした者たちがいます。**」

- マリヤ -

私たちはまた馬に乗って、ドアが半分開いたところにやって来ました。そして、主が私に言われました。「しもべよ、ここにおいでなさい。このドアの後ろにマリアがいます。近寄ってマリアの言っていることを聞きなさい。そして、マリアが苦しんでいることを私の民に知らせなさい。」私は近寄って若い婦人を見ました。とっても美しくて若い人でした。この方の顔はとっても美しかったです。マリアはとっても小さな窓から見ていました。彼女はひざまずいて、地球の方を見ながらとても苦しんで泣いていました。



彼女は言いました。「あなた方はなぜ私を礼拝するのですか？ 私に力など何もないのに、なぜ？なぜ私を礼拝しているのですか？ 私は何もしていませんよ！私を礼拝しないでください！私の前でお辞儀をしないでください！私はあなた方を救うことはできないのですから！救うことができる唯一の方、あなたを贖うことのできる唯一の方は、全人類のために死んでくださったイエスです！多くの人は、私が力を持っているとか、奇跡を行うことができるなどと言っていますが、それは嘘です！私は何もできません！全能の神が私に満足されて、私の胎を用いてイエスが生まれることができ、人々を救うことができたのですが、私にはなんのパワーもありません。何もできません！私にお辞儀をしてはいけません！私を礼拝してはいけません！私はなんの礼拝する価値もないからです。礼拝するにふさわしい唯一の方、またお辞儀をすべき方、また、あがめるべき唯一の方はイエスです！彼が癒したり救うことのできる唯一の方です！」

私はその若い婦人がとっても辛そうに泣いているのを見ることができました。彼女は言いました。「だめ！だめ！私を礼拝しないでください！なぜ私の前でお辞儀をするのですか？私は何もできないのですよ！」分かりますね、愛する兄弟の皆さん、苦しみと悲しみで泣いている若い婦人を見るのはとても気の毒なことでした。

- 衣と冠 -

主は私に言われました。「しもべよ、ここにおいでなさい。もっとあなたに見せるものがあります。」私たちはとっても美しい所に着きました。そこでは神様の栄光を感じることができました。白い衣の列がたくさんあって、その衣は真っ白でとても美しかったです！私がそれに触ると、主が言われました。「しもべよ、これらの衣に触ってごらん。これらはみなあなた方のためにあるのですよ。」

私はたくさんの衣の列を見て触りました。衣は真っ白に輝いていました。地球ではこれと同じものに触ったことはありません。主が言われました。「しもべよ、これらの衣はみなあなた方のものです。」主のほおには涙が流れていました。主が言われました。「しもべよ、この白い衣の多くは、受け取る人を待ってここに残されます。この白い衣の多くは、それを着る体を待ってここに残されます。」「主よ、それはなぜですか？」と私はたずねました。「しもべよ、白い衣の多くが体を待ちながらここに残るのです。なぜなら、私の国では、どんな汚れも私は受け入れないからです。私の国には聖なるものだけが許されます。私の言葉にはこう書いてあるからです。私が聖なる者であるから、あなた方も聖なる者となるべきである。」(1ペテロ 1:16)

私はたくさんの衣を見ました。一つ一つの衣には金で名前が書いてありました。私は小さな違う形の衣に触りました。私は言いました。「主よ、これらの小さな衣はだれが着るのですか？」主は答えられました。「しもべよ、私の小さな子供たちのことを覚えておきなさい。私は衣をみんなのために用意しました。私はえこひいきをする者ではありません。こ

の小さな衣は私を賛美する小さな子供たちのためのものです。その衣は私の家に行くことの好きな、また私の名に栄光を帰する私の小さな子供たちのためのものです。だから、彼らのために小さな衣を用意したのです。私をたずね求める者たちのためにも衣を用意しました。また、私の足下に来る者たちのためにも用意しました。そして、私は彼らに永遠の命を与えます。」



私たちはまた馬に乗って進んで行きました。すると、すぐにたくさんの冠のある、ものすごく大きな場所に着きました。とても豪華な光り輝く冠です。私は言いました。「おお、主よ！これらの冠はとても素晴らしいです。だれがこれらの冠をかぶるのですか？」主は言われました。「しもべよ、あなたが触っているこれらの冠は私の名を褒め称える者たちや私が願う通りに私の名に栄光を帰する者たちのものです。」

主は他の冠も見せてくれましたが、ただ粋だけの冠があるのに気が付きました。その時、主が言われました。「こちらをご覧ください。」そして、私は他の冠も見たが、これらの冠はとげで作られたものだったので、私は言いました。「私にいばらの冠や粋だけの冠をかぶせないでください！」主は私に言われました。「しもべよ、ここには三つのタイプの冠があります。あなたが見て触ることのできる豪華で光り輝く冠、これらは真実、私の名を賛美する者たちのため、真実に心から私の名を賛美し栄光を帰する者たちのためのものです。私のぶどう園で働く者たちのためのものです。私の家において喜び楽しむ者たちのもの、私の言葉のために喜んで努力し苦しむ者たちのものです。ただあなたが見て触ることのできる粋だけの冠はただ私の言葉をもて遊ぶ者たちのものです。私の家にいたくない者たちのため、断食が好きでない者たちのため、忍耐するのも私の名に栄光を帰することもしない者たちのため、心からではなく口先だけで私を褒め称える者たちのものです。なぜだろう、私のしもべよ？だれも私をごまかすことはできないからです。私から隠れる場所はどこにもありません。しもべよ、あなたが見て触ることのできるイバラで作られた冠は私の言葉をからかう者たちのため、私の言葉を批評する者たちのため、私が心のドアをノックしても私の言葉を受け入れようとしない者たちのためにあるのです。」



—携挙(天への携え上げ)のビジョン—



その後で主は言われました。「しもべよ、天への携え上げをあなたに見せてあげましょう。私
が来る時の様子を見せてあげましょう。」それで、私は言いました。「主よ、もうたくさん見ま
した。なぜ、もっと私に見せようとされるのですか？」私たちは神様の御座に着きました。そ
こには何千何万もの天使たちが集まっていました。それから、私たちは下に下り始めました。
そして、主と私は白くて美しい雲の中で立ち止まりました。主が天使たちに、来て教会を受け
入れるようにと命じました。そして、主は私に言われました。「しもべよ、よく注意して見なさい。
私が戻って来る時の様子です。私が戻ってくる時はこのようになるのです。」

私は主の御名を賛美する人々が地球のあちこちから引き上げられるのを見ました。人々はみな神の力に覆われていました。みな白い衣を着て、上へ上へと昇って行きました。彼らはとても美しい歌を歌い始めました。「聖なる、聖なる、聖なるかな、おお、我らの主よ！父よ、あなたに感謝します！あなたが私たちを引き上げてくださったからです！主よ感謝します。あなたが私たちを引き上げてくださいます！」

私は背の高い人、低い人、色の黒い人、白い人などいろいろな人たちを見ました。人々はみんな、主と私がいる雲の所まで上って来ました。人々も天使たちもみな主への感謝でいっぱいでした。私たちはみんなで言いました。「聖なる！聖なる！聖なる、おお、我らの主よ！」ものすごいことでした。私の知っている人もたくさんいました。みんな神の栄光におおわれていました。

－大艱難のビジョン－

その後、私たちは神の御座に着きました。そして、主は言われました。「しもべよ、ここにおいでなさい。」私たちは御座のある部屋から出て、非常に小さな窓がある所に着きました。主が言われました。「しもべよ、下をご覧なさい。」ひどく荒れ果てた様子が見えました。もうものすごく荒れ果てていました。地球全体が苦しんでいっぱい荒れていました。主が言われました。「しもべよ、ご覧、これは私が地球から私の民を取り上げた後に起こる事です。私が来た後で起こる事です。私の教会がここに一緒にいるようになってから後に起こる事です。」私はひどく荒れ果てた様子を見ました。

私は一瞬の間お祝いをしている人たちを見ましたが、次の瞬間、お父さんが自分の子供をさがしているのや、お母さんが自分の娘をさがしているのを見ました。でも見つかりませんでした。全能の神が彼らを取り去ったからです。親類の人は他の親類の人をさがしていました。でも、見つかりませんでした。人々が自分の隣の人をさがしていましたが、それも見つかりませんでした。主が彼らをご自分のところに連れて来られたからです。

何か恐ろしい事が地球全体に起ころうとしていました。一人の牧師が一つの場所から別の場所に走って行くのを見ました。私は主にたずねました。「主よ、あの人はなぜ一つの場所から別の場所に走って行くのですか？」主は答えられました。「しもべよ、この人は牧師でしたが、私が来るのが遅くなると考えていたので置き去りにされたのです。彼は私がすぐに来るとは考えませんでした。私が来るのはずっと後のことだと考えていたのです。だから、彼は後に残されたのです。」牧師はあちこち走り回りながら言いました。「主よ、なぜ私は置き去りにされたのですか？ 私は牧師です。教会の中にいる者です。しかし、教会がいなくなりました。私は置き去りにされたのですか？なぜなのですか？」主は言われました。「しもべよ、今となっては私には何もできません。彼は私が来るのが遅くなると思っていたから、だから、後に残されたのです。」

私はその人が迫害されるのを見ました。その人が言いました。「私が唯一望むことは、私が取り去られてキリストと共にいることだ！私の望みはただひとつ、主と共にいること。大艱難の中にいて苦しむのはいやだ！」その人はひとりごとを言いながらあちこちと走り回りました。「私はなぜ置き去りにされたんだ？主よ、私も一緒に連れて行ってください！ここにいて、苦しむのはいやです！」主は言われました。「しもべよ、今や私にできることは何もありません。長い間、私は彼に、私はもうすぐにも来ると話していたのですが、彼は私の言うことを信じませんでした。だから、彼は後に残されたのです。」

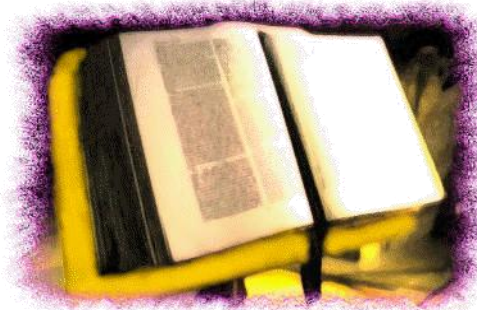
私は他にもたくさんの人があっちにもこっちにも走っているのを見ました。とても多くの人が何とかして平安を得ようとしていましたができませんでした。彼らは叫んで言いました。「我々は命の言葉が欲しい！我々は神の言葉に乾いている！」でも、その時は遅過ぎました。主が教会を自分のところに上げられた後だったからです。

私はたくさんの若い男の人や女の人がやぶの中や山に登って平安をさがしていました。彼らは平安を求めましたが見つけることはできませんでした。主はそのわけを言われました。「私が私の教会をすでに取り去ったからからです。そして、今はサタンが支配者です。」すでにサタンが地球を支配していました。ですから、地球全体に苦しみがありました！人々はあっちこちと逃げまわっていました。人々は生きたまま互いを食べようとしました。またお互いの髪を引き

抜こうとしました。また、口げんかをしてお互いに相手を傷つけ合いました。平安を見つけたかったからです。でも見つけることはできませんでした！それは出来ないことでした。主がもう教会を取り上げてしまった後だったからです。

地球のこんなにひどい時代を、こんなに恐ろしい事を私は見ました。とても多くの人々が傷つけ合いながら言っていました。「私たちは愛が欲しい！愛が欲しい！」でも、遅過ぎました！主は私に言われました。「**ご覧、私のしもべよ、私は時間をかけて彼らの心のドアをノックしてきました。しかし、彼らは私を求めようとはしませんでした。だから、今は、彼らは後に残されるのです。今、私が彼らのためにできることは何ともありません。なぜ？すでに私の教会を取り上げてしまったからです。私の民は天で小羊の婚宴を楽しんでいる間に、これらすべての人々はひどい痛みで苦しむ、歯ぎしりをして泣き叫んでいます。なぜなら、彼らは私の言葉に従いたくなくて、私の言葉を批判してあざ笑うことを選び取ったからです。**」

-命の書-



その後で、主は大きくて美しい本を私に見せてくださいました。その本は金でできていて、とても輝いていました。私は言いました。「主よ、あの本ですが、あれは何のためにあるのですか？」主は言われました。「**しもべよ、この本には私を愛めたたえる者たちの名前や、悔い改めて私の道をたずね求めてきた者たちの名前が書いてあるのです。また、この本には一緒に集まって私の名を賛美したり栄光を帰す者たちの名前が書いてあります。**」その本はとても大きくて、文字は金で書いてありました。主は言われました。「**ご覧、私のしもべよ、これらの多くの者たちが私に背を向けたけれども、彼らの名前は、私の憐れみによって消し去ることはしませんでした。**

多くの者たちが私に背を向けたけれども、私の憐れみは非常に大きいので、彼らを削除することはしていません。私はだれも滅んで欲しくはなく、むしろ、永遠の命を得て欲しいからです。」 私がその本にさわると、そこにはとてもたくさんのお名前が書いてあるのを見ました。

-地獄-

その後で主は言われました。「**しもべよ、あなたに地獄を見せます。**」それで私は言いました。「主よ、いいです。私はとても耐えられません。これまであなたが見せてくださったもので、もう十分です。」すると、主は私に言われました。「**しもべよ、あなたに地獄を見せます。そこで行って教会や他の人々に、天国があること、しかし、地獄もまたあることを語りなさい。**」私たちはだんだん下り始めました。まだ地獄から遠く離れているのに、叫び声や大きなうめき声が聞こえてきました。私は言いました。「主よ、私をここから連れ出して下さい。とても見ることはできません！」主は答えて言われました。「**ほら、私のしもべよ、私が一緒にいるから恐れはいけません。**」私たちはいくつかのトンネルを歩いて下って行きました。そこはとても大きな暗闇でした。その暗闇は地上では絶対に感じたことのないものでした。

私たちはいくつかの壁のそばを歩きました。そして、とても多くの魂たちが痛くて苦しくて叫んでいるのが聞こえました。主は言われました。「**しもべよ、さあ、前に進みましょう。**」私たちは一人の人が叫んでいる所に着きました。私は主にたずねました。「主よ、なぜ私たちはここで止まったのですか？」主は答えて言われました。「**ご覧、しもべよ、よく注意してこの人を見なさい。この人は地上であなたの親類だった人です。**」私は言いました。「主よ、だれですか？この人

はだれだか分かりません。」主は言われました。「この人はあなたのおばあさんですよ。あなたの親類です。しかし、この人はとても不信心な人だったから、今はここにいるのです。」

おばあさんが言いました。「どうか水をください。ここから私を連れ出してください。この痛みには耐え切れません。喉が渴いています。」でも私には何もしてあげることができませんでした。ただ泣くばかりでした。私は言いました。「主よ、あなたの無限の憐れみと無限の善によって、おばあさんをここから連れ出してください！おばあさんはどうしてここにいるのですか。私のお父さんとお母さんは、おばあさんが天国にいと私に言いました。」

主は言われました。「しもべよ、牧師はあなたの両親に、おばあさんは天国に行ったと言いましたが、それはうそです。それはうそなのです。どうしてかと言うと、彼女はいつも偶像を拝んでいました。偶像を称えていました。ご覧、偶像は彼女を救うことはできませんでした。私は彼女の心のドアを何度もノックして心を開くように促しては中に入ろうとしたのですが、彼女は私の言葉をばかにしたのです。彼女は私の名を称えるよりか、この世に従う方がよっぽど良いことだと心に決めたのです。それで、彼女はここにいるのです。彼女は私の言葉を決して受け入れようとはしませんでした。決して悔い改めたいとも思いませんでした。しかし、牧師は両親にあなたのおばあさんが天国に飛んで行って、天の大邸宅にいると言ったのです。しかし、それはうそです。ご覧、私のしもべよ、彼女のいる所を。」おばあさんはとても苦しうに泣き叫んでいました。そして、言いました。「水をください！私をここから出して！」主は言われました。「今となつては、私には何もできません。この魂はもう私のものではないのです。」私たちは向きを変えてそこを去りました。彼女は私に向かって叫びました。「お願い！私を置いてかないで！水をちょうだい！私をここから出して！」主は何もできませんでした。

私たちはとてもたくさんの人たちを見ました。魂たちは主の衣をつかもうとして言いました。「ここから私たちを出してください！」しかし、主は彼らに言われました。「私から離れなさい。君たちはもう私のものではない。サタンと悪鬼どもの者なのだ。」それはとても多くの魂たち、とてもたくさんの人たちのいる、とつても恐ろしい所でした。

-サタンの王座-



私たちは馬に乗って進みました。そして、とても恐ろしい場所に着きました。そして、主は言われました。「ご覧、しもべよ、あなたにサタンの王座を見せてあげます。」私は主に言いました。「いいえ、主よ、そんな王座など見たくありません！」主は答えて言われました。「しもべよ、恐れてはいけません。私とあなたと一緒にいますよ。」それから、私たちはとつても怖くてぞつとするような場所に着きました。とつても大きな椅子があつて、そこにサタンが座っているのを見ました。大きな爪を持っていました。そして、彼は笑って笑って笑いを止めることができませんでした。また、私はどこにでも悪鬼がいるのを見ました。大きさの違う悪鬼たちを見ました。そして、支配たち (principalities) を見ました。要塞 (ようさい) を見ました。そして、いろんな種類の悪鬼を見ました。それから、サタンが悪鬼たちに命令を与えるところを見ました。地球に上って行って、あらゆる種類の悪を引き起こすようにと命令しました。

それらの悪鬼たちが破壊、人殺し、争い、離婚など、いろんな悪いことを引き起こすのを見ました。それから、彼らは戻って来て、自分たちのしたことを全部サタンに報告しました。すると、サタンは笑いころげました。サタンは悪鬼たちにご褒美をあげました。そして、悪鬼たちはサタンを祝福したり、褒めたたえたり、彼のために歌ったりしました。

私はサタンはクリスチャンを滅ぼすためのたくさんの計画、神の忠実なしもべたちを滅ぼすための大きな計画を持っているのを見ました。近代主義がいっぱいのもとても大きな教会や集会を見ました。主は言われました。「**ご覧、しもべよ、これらの教会はサタンに取り憑(つ)かれています。だから、私と一緒に天に昇ることはできません。**」

主は、悪鬼たちがたくさんの人殺しを引き起こして、その魂たちがみんなこの恐ろしい所、地獄に到着するのを見せられました。私は炉を見ました、そして、主は言われました。「**ご覧、しもべよ、これが火の池です。そして、これは地獄です。**」

悪鬼たちが大虐殺を引き起こすたびに、すべての魂がみんなこの場所に落ちて来ました。炎が彼らを焼き尽くして、彼らは溶けました。魂たちは痛みと恐怖で泣き叫びました。悪鬼たちはサタンの王座に戻って来て、自分たちがやったことをサタンに話しました。サタンはもう笑って笑って、笑い転げました。そして、悪鬼たちにご褒美をあげました。すると、悪鬼たちはサタンのために歌ったりとびはねたりして、いろんな方法でサタンを祝福しました。サタンは魂たちがみんな地獄に到着したので、うれしそうに、また、ほこらしげに笑いました。魂たちが毎秒ごとに落ちて来るので、サタンはとも高ぶって笑いを止めることができませんでした。

また、私はその場所でたくさんの悪鬼の感じがし、とても多くの力を感じました。「**主よ、どうか、私をここから連れ出してください。もうこれ以上我慢できません。**」悪鬼たちはそこにいる魂たちを突き刺して苦しめました。魂たちは叫びました。「**俺たちを放つといってくれ！俺たちの邪魔をしないでくれ。俺たちはもうこれ以上苦しみたくない。平安をくれ！**」すると、悪鬼たちは笑いました。

-聖なる都-

その後、私たちはそこを離れました。主が言われました。「**ほら、しもべよ、あなたに聖なる都を見せてあげます。そこに行ったら、私の民のために私が用意している壮大な様子をみんなに語りなさい。**」私たちは上に上がって美しい所に着きました。そこには、美しい木やとても高い松の木がありました。そこではどれもみなとても美しかったです。私は素晴らしい平和を感じることができました。



その都のドアには美しい虹がありました。道の両側にはたくさんの天使がいました。私たちはドアを通りました。主が言われました。「**しもべよ、これが聖なる都ですよ。**」私たちが歩いて行くと、地球上では一度も見たこともないような美しいバラの園に着きました。

私は主から手を離して園の方に走って行きました。私は花を抱きました、花はとってもきれいで、とても甘いにおいがしました。私が花を摘もうとすると、主が言われました。「**い**

けません、しもべよ、まだ、花を摘んではいけません。私の民がここに来るまで、私の教会がここにやって来るまで、摘むことはできません。彼らがここに来たなら、花を摘んでもよろしい。」私は言いました。「**主よ、一つだけ取ってそれを地球の教会の人たちみんなに見せようと思ったのですが。**」でも、主は言われました。「**いいえ、しもべよ、私の民がまだここに来ていないからダメですよ。」**私はたくさんのいろんなタイプの美しい花を見ました。



それから、私たちはまた馬に乗って美しい緑の草の間を歩いて行きました。主は草の上に座ってから美しい笑顔をして言われました。「しもべよ、あなたが見たり触ったりしたものはみんな私の民のために私が用意したものです。」

それから、私たちはとても大きな木のある所に来ました。そして、その木にはたくさんの実がなっていました。私は言いました。「主よ、この木は？この木は何を意味するのですか？そして、このすべての実は？」私が行ってその木の実の一つを取ろうとすると、主がまた言われました。「いいえ、しもべよ、まだその実を取ることはできません。この木は命の木です。私の民がここにやって来たなら、この木から取って食べるようになります。私の民がここに来るまでは、まだ取ることはできません。」その木はとっても美しい実を付けていました。

それから、私たちが進んで行くと、たくさんのちょうちょや動物たちのいるのを見ました。主は言われました。「しもべよ、これらはみな私の民のためのものです。私の民に言いなさい。間もなく彼らはここに来て、この聖なる都を歩くことになるのですと。」

私たちは進み続けてまた別の美しい所に着きました、そこにはたくさんのとても大きな木や松の木がありました。主は言われました。「しもべよ、これはみな私の民のもので。しもべよ、ここにおいでなさい。あなたがびっくりするものを見せてあげますから。」

私たちは美しい所に着きました。そこには天使たちがいっぱいいました。一人の天使はとても大きくて、大きなラッパを口にあてていました。私は言いました。「主よ、あの天使は何をするのですか？」主は答えて言われました。「ご覧、しもべよ、この天使は私が与える合図を、私が与える命令を待っているのです。この天使がラッパを吹き始めると、私の民が引き上げられ、復活し、変化します。しかし、ひとつだけはっきりしておきなさい。このラッパは目を覚ましている者たちだけに聞こえます！だから、行って私の民に目を覚ましてるように言いなさい。私の民に眠らないように言いなさい。もし、眠り込んでしまったなら、ラッパの音が聞こえないからです。私の民に目を覚まして見張っているように言いなさい。眠っている者たちを起こすことは私にはできないからです。」



その天使はとても大きくて美しかったです。そして、その天使の後ろにはたくさんの天使たちがいて、彼のよりは小さいラッパを持っていました。そのラッパは金で作られていて、きらきらと光っていました。主が言われました。「しもべよ、私の民に用意するように言いなさい。私がラッパを鳴らすように命令を下そうとしているからです。」

私たちはふたたび馬に乗って進み始めました。そして、主が言われました。「ご覧、しもべよ、私の父の御座を見せてあげます。まだ見せていませんでしたが、今、見せてあげます。だから、あなたは行って、私の父が実際であり、私も実際であると私の民に言うことができます。」主と天使たちと私はみんな歩き始めました。私たちがまだ父の御座から遠く離れていたのに、私はこれ以上歩けなくなってしまいました。すごいパワーと栄光の前で私は立っていませんでした。近付けば近付くほど、私は羽になったような感じがしました。とても歩くことができません。天使たちが支えてくれなければ、私は歩き続けることはできませんでした。



私たちは父の御座に着きました。私は御座から来るものすごいパワーを感じることができました。とても栄光ある、また、とても大きな御座から、とても強い稲妻が来ました。そのすごいパワーが金で光り輝く御座を取り囲んでいました。だれかが御座に座っていました。でも私はその顔を見ることはできませんでした。私はその御座から来るパワーに耐えるこ

とができませんでした。父の腰から下しか見ることができませんでした。腰から上は、その時、私が床に倒れてしまったので見ることはできませんでした。私が倒れたのは、すごいパワーと栄光に耐えることができなかったからです。



その後で、私は24人の長老たち(訳注:黙 4:10)が主の御名を賛美し、栄光を帰しているのを見ました。また、とても大きな大天使たちも主の御名を賛美し、栄光を帰しているのを見ました。24人の長老たちはひざまずいて言いました。「**聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、おお、あなたの御名よ!**」天使たちは主を賛美したり栄光を帰しても決して疲れることはありませんし、主の御名を賛美することと栄光を帰すことを途中で止めたりすることは決してありませんでした。御座からはとてもすごい火が来ました。そして、その御座にはとても多くの美しいものがありました。

それから、私たちはそこを去って、とても大きな天使のいる所に来ました。私は言いました。「主よ、あの天使はだれですか?」主は答えられました。「**ご覧、しもべよ、これは天使ガブリエルです。それから、他のもう一人の天使をご覧なさい。これがミカエルです。**」二人はとても大きくて美しい天使でした。主が言われました。「**しもべよ、天使ガブリエルと天使ミカエルは本当にいるのですと私の民に言いなさい。**」



その後で、主が言われました。「**しもべよ、ここにおいでなさい。あなたにむちを見せてあげます。**」私たちはまた別の場所に着きました。そこで主は木の端の付いたむちを取り出されました。主はそれで非常に大きな椅子を打って、言われました。「**しもべよ、これは反抗的な者たちのためです。このむちは私の言葉に従いたくない者たちのためのものです。私はこのむちで彼らを打ちます。私の愛する者を私は罰するからです。**」私は主がそのむちで椅子を打たれるのを見て言いました。「パパ、そのむちで私を打たないで!」彼は答えられました。「それではしもべよ、私に従いなさい。私に服さない者を私はこらしめるからです。」(黙示録 3:19 すべてわたしの愛している者を、わたしはしっかりと、懲らしめたりする。だから、熱心になって悔い改めなさい。)

それから、主は私を貴い所に、そして、ものすごく大きな所に連れて行かれました。そこにはたくさんの金の冠があるのを見ました。でも、それらの冠には、もう名前が書いてあって、真珠がいっぱい飾ってありました!「**ご覧、しもべよ、ここに私のしもべ ヤイ・アビラ(Yiye Avila)の冠があります。そして、こちらのは私のしもべ アルツーロ・ガルシア(Arturo García)の冠です。**」冠は貴重でした!一つの冠には「**アイダ・ヴァディロ(Aida Vadillo)**」と書いてありました。もう一つの中には、「**ミゲル・デュラン(Miguel Duran)**」と書いてありました。そして、別のには、「**アルマンド・デュラン(Armando Duran)**」と書いてありました。「主よ、今、私はしもべたちの冠をみんな見て触ることができます。」また、私は「**パブロ・ピンタード(Pablo Pintado)**」、と「**ナフム・ズムディオ(Nahum Zamudio)**」の冠を見ました。

主は言われました。「**しもべよ、さあ、あなたにこれを見るのを許します。これは私のぶどう園で働いている私のしもべたちの冠です。それらがここにあります。だから、あなたは私の言葉を宣べ伝えている私のしもべたちを見ることができますよ。彼らのために私は大きな報いを用意しています。**」私は名前の書いてある何千何万もの冠を見ました。

私はまた別の冠に触りましたが、この冠の石がみんな落ちてしまうのを見ました。「主よ、この冠が私のものでありませんように!」主は言われました。「**ご覧、しもべよ、これは、もうこれ以上私のぶどう園で働きたくないと思う者たちの冠や、私に背を向けて私を賛美しない者たちの冠に起こっているのです。ご覧、しもべよ、もう私を褒め称えたくないと思うしもべたちの冠にそのようなことが起こるのです。また、私のぶどう園で、もう働きたくないと思っているしもべたちの冠にそのようなことが起こるので**



す。」(黙示録 3:11 わたしは、すぐに来る。あなたの冠がだれにも奪われないように、自分の持っているものを堅く守っていなさい。)

それから、主は私をまた別のとっても美しい所に連れて行かれました。そして、私はたくさんの人々が眠っているのを見ました。その人たちは真っ白の衣を着ていました。私は言いました。「主よ、この人たちはみんなだれですか？」主は答えられました。「**ご覧、しもべよ、ここにいる人たちはみな地球上で死んだ者たちです。そして、今ここ天国で休んでいるのです。私がラッパを吹き鳴らすように命令を出すと、まず死んだ者たちが起き上がります。それから、地球上にいる者たちが引き上げられます。**」そこにはとても多くの人たちがいて、その衣は真っ白でした。(1テサロニケ 4:16-17 すなわち、主ご自身が天使のかしらの声と神のラッパの鳴り響くうちに、合図の声で、天から下ってこられる。その時、キリストにあつて死んだ人々が、まず最初によみがえり、それから生き残っているわたしたちが、彼らと共に雲に包まれて引き上げられ、空中で主に会い、こうして、いつも主と共にいるであろう。)

だれも他の人と話しをしていませんでした。彼らはただもうぐっすり眠っていました。主が私に言われました。「**しもべよ、みんな休んでいるのです。しかしラッパが鳴ると、この人たちがまず起き上がります。それから、地球上に残っている者たちが引き上げられて一緒にになります。そして、私と共にいることになります。それから、私たちは小羊の婚宴を祝うことができるのです。**」

おわり